

第11回上田市花と緑のまちづくりコンクール審査結果

平成19年に始まった本コンクールも、平成29年で11回目の開催となりました。第11回目も、団体部門（50平方メートル未満・プランターの部、50平方メートル以上の部）、個人部門、学校部門の4部門で審査が行なわれました。第11回は全体で40件の応募があり、8月23日に一次審査（書類・写真・動画審査）、9月1日に二次審査（現地審査）を行い、13件の受賞者を決定しました。

表彰式は、12月16日に「信州上田 景観・花と緑 まちづくりフォーラム」内で行われました。

団体部門(50平方メートル未満・プランターの部)

◆最優秀賞

御嶽堂上組フラワーガーデン（御嶽堂）



別所丸子線沿い、御嶽堂上組交差点横の花壇です。通学路に面しており、子供たちの心のいやしになるとともに、交通安全の願いが込められています。色違いの花を植えることで見られるコントラストが素晴らしく、花壇デザインのセンスの良さが出ています。審査員から非常に完成度の高い花壇であると評価をいただきました。

◆優秀賞

大畑自治会花づくり推進部（真田町本原）



国道144号沿い、藤沢古墳の隣にある花壇です。毎日朝夕としっかり手入れがされているため、いつ行っても花壇全体が良好な状態に保たれています。道路沿いの花壇のため地域の人だけでなく、菅平へ向かう観光客、合宿へ向かう学生の目も楽しませています。

◆奨励賞

下丸子福寿会（下丸子）



下丸子と、その上の旧軌道敷の交差点の2箇所にある花壇です。側面に意を払って植えられている白、紫のペチュニアは、見事に咲き誇っています。背丈を伸ばさない工夫がされていたりと細かいところまで行き届いています。信号近くにある花壇のため、運転者の目に入りやすく、人々の心をいやしてほしいと願いが込められています。

◆奨励賞

木町分館「花育てタイ」（中央4）



木町通りを中心に、仲間を増やし、今年はプランターの数が200となりました。住民は自宅前のプランターの水くれ等の手入れをしています。花の植栽は、幼児、小学生、中学生、PTAから高齢者まで70人が参加し、花の生長を通し地域コミュニケーションを深めています。マリーゴールドとペチュニアの組合せ、北側と南側で花の色を変えるなど工夫をしています。

団体部門(50平方メートル以上の部)

◆最優秀賞

しなの木会：上沢こども会（国分）



信濃国分寺駅に4カ所あるロータリー花壇です。今年は自治会の年間行事の中でも大きなボランティア作業とすることで多くの住民が活動することになり、花を通して地域のコミュニケーションがより活発になりました。草取りも小学生とその父母で行うなど地域全体で維持管理をしています。ペチュニアが色鮮やかに咲き、育成管理、デザイン共に素晴らしく、見ていてとても楽しい花壇です。

◆優秀賞

尾野山長寿会（生田）



信州国際音楽村の南側、県道上田塩川線の交差点横にある花壇です。通りが南側、西側にあるため、道路からの見栄えを考慮し植栽しました。配色・種類・道路から全体を見回せる配置等バランスが大変良い花壇です。日々草、ペチュニアの生育がよく、また整然とした植栽で、非常に見応えがあります。

◆奨励賞

下本郷地区花と緑の街づくり協議会（本郷）



築地下之郷バイパス沿いにある長い花壇です。生育のいい白・青・赤のサルビアと、ジニアリネアリスがバランスよく整然と一直線に並んでいる姿は非常に見応えがあります。シーズン後には、抜き取った花を細かく刻み、コヌカと混ぜ堆肥にし、肥料として再利用しています。長年、花壇が美しく保たれていることに、地域住民の努力が感じられます。

個人部門

◆最優秀賞

滝沢 裕子 邸（大屋）



今年は庭の見どころを考え、中心に花を集めました。初雪草等の宿根草のこぼれ種を利用することでアクセントを入れたりとの選択や配置が素晴らしく、庭全体が楽しめるよう工夫されています。バックフェンスを利用し立体的に見せたり、バラのアーチにチャレンジしたりと現状に満足せず更なる高みを目指しています。非常に完成度の高い庭です。

◆優秀賞

中島 明 邸（御所）



道を歩いていて、この場所だけ違う国に来たかのような、錯覚をするくらい圧倒的なボリュームの花屋敷です。毎年デザインを変えていますが、今年はジニアを中心にデザインをしています。細部にはポーチュラカが色とりどりにきれいに植えられていたり、ペゴニアのハンキング、寄せ植えのペチュニアは技術的に非常にレベルが高く見応えがあります。

◆奨励賞

中嶋 三津子 邸（武石沖）



家の横の花壇には生育がよく、背の高いケイトウ、ジニアが目を引き、玄関、勝手口には色鮮やかなプランターを立体的に配置し訪れる人を出迎えてくれます。海外からのホームステイ、農業体験にやってくる都会の子供達を受け入れ、花でお出迎えをしています。

学校部門

◆最優秀賞

真田中学校（真田町長）



本年度新たに、生徒棟の南側に造成された「メイン花壇」です。校章にある「かりがね紋」の翼をブルーサルビアで、側面には戦国真田氏の戦いの陣形を赤いサルビアを直線的に配置することで再現しました。段差を付けた植栽、赤、紫、黄色の配置、計算された育成状況に加え、赤いサルビアのプランターや芝との調和も優れています。

◆奨励賞

丸子北中学校コスモス大学花作り学科（生田）



今年も大量の石の片づけから始めた花壇作り。地域の方を講師にお迎えし、学年の枠を超えて活動しています。花壇を整備することで、ゴミのポイ捨て、スピードの出しすぎ防止に役立つようにと願いが込められています。今年はサルビアの生育がよく見応えがありました。授業での活動の他、当番を決めての草取りと水やりをしていたりと生徒が作り上げた花壇です。

◆優秀賞

塩田中学校（中野）



本格的に学級花壇づくりを始めて4年目となり、年を追うごとに生徒の意識も高まり姿勢も積極的になっています。管理は生徒が行い、生徒自身の手で作上げた花壇です。今年も3年生の6学級が育てた学級花壇をコンクールに出展しました。それぞれのクラス毎に色、種類も個性がありますが全体としてよくまとまっています。また「花育」として、プランターを各施設等に配置し、花を育てながら地域住民との交流を深める活動をしています。